

Ecola

イ・コ・ラ

No.15

発行 2011年11月19日

皆さん、こんにちは！

お元気ですか～？ お変わりなく、お忙しい日々をお過ごしのことと思います。半年に一回発行しているイコラですが、いつも感じるのは、“時間の経つのは何と早いのだろう！”です。

今回のイコラは、23年度上半期を振り返ってお伝えします。半年の間にも、いろいろな活動がありましたよ。子どもたちの大好きなイベントの他、東日本大震災をきっかけに、防災についての研修や話し合いも行われています。また、10月には、和歌山でNHKフォーラムが開催されました。

では、いつものようにお茶でも飲みながら、ゆっくりとご覧ください。

平成23年度NPO法人和歌山県自閉症協会 和歌山市分会 総会

平成23年度NPO法人和歌山県自閉症協会 和歌山市分会総会が、5月8日（日）、和歌山市中央コミュニティセンターにて開催されました。



東日本大震災の直後であり、参加者から「震災時、自閉症の人たちがどう過ごしたかについての情報がほしい。それを聞いて、準備をしていきたい」との意見が出されました。それに関連して、参加されていた木元市議会議員と古川市議会議員も、行政の取り組みや課題について説明され、またそのような「公助」以外に、「共助」（地域で支える）と「自助」の必要性について述べられました。震災以降、役員会などでも議題として挙がっていたのですが、会としてどうあるべきか、それぞれ個人として何をすべきか、考えるべき課題が示された有益な会議の場となりました。

防災研修会

“ 障がい児のための防災を考える ”

9月11日(日)

和歌山市河西コミュニティセンターにて



堺市にあるNPO法人ぴーすの理事長 小田多佳子さんをお招きして開催しました。その前の週の台風12号で和歌山県でも大きな被害が出ていたこともあり、参加者のみなさんは、真剣な表情で受講されていました。



“ 障がい児・者家族のための防災ワークショップ ” というレジメの題目どおり、小田さんのお話を聞くだけでなく、小グループに分かれて意見を出し合い、それを発表する、という場面もあり、「自分で自分の家族を考える」という機会を与えていただきました。

どこで被災するか(家・外出中)、物の準備(非常持ち出し袋・備蓄品)、避難所へ行くか行かない(行けない)か・・・等、いろんなパターンを家族や仲間と想像して話し合うことが何よりの防災だということです。

小田さん自身が知的障害を伴う自閉症児(支援学校高3、男子)のお母さんだということもあり、自閉症児・者の特性に添った講演でした。

ぴーすは発達障害、知的障害、自閉症、ダウン症、肢体不自由など、あらゆる障がい児・者とその家族のための暮らしを支援する大阪府堺市にあるNPO法人です。(ぴーすHPより)

参加された方の感想です。

3月11日、「いつもより大きな地震だな」と思い、テレビをつけると、東北の信じられない光景が映っていました。それから毎日、震災のニュースが続き、避難所の様子も報道されていました。体育館でのプライバシーのない生活、自閉症の方たちはどうしているのだろうか・・・？和歌山でこんな震災が起きたらウチの子は・・・何とも言えない不安に襲われました。

和歌山市分会の総会で、私の不安をお話したところ、市議の方々から「自助、共助、公助」について説明していただき、また藤原会長からは「自閉症協会として安否の確認等のネットワーク作りを検討中」とのことでした。

NPO法人ぴーす 小田多佳子さんを講師に「障がい児のための防災を考える」という防災研修会では、「防災の基本について」「準備しておく物と場所」「日頃から家族や仲間とシュミレーションしておく」「障害児の問題行動の対応」等々、家庭ですぐにできることを具体的に示してくださいました。

防災のポイントは、「何より大事なのは、自分を守ること(自分が助からなければ誰も助けられない)」、「個ではなく「つながり」を広げること(自分だけでは生きていけない)」の2点を挙げられました。

そして最後に小田さんは、「明るい気持ちでゆっくりでいいから完璧よりも進化を目指してください」とおっしゃっていたので、できることから少しずつ準備しようと思います。

お母さんの交流会

- 第1回 平成23年6月23日(木)参加者23名(会員16名 一般7名)
 第2回 平成23年9月15日(木)参加者17名(会員12名 一般5名)
 中央コミュニティセンターにて



6月23日の交流会の様

定期的に行っている、就学期の子を持つお母さんの交流会です。この会がきっかけで入会してくださる方や、一般参加のリピーターの方も増えてきていて、うれしいかぎりです。

一般参加のお母さんの、障害受容や、幼稚園のお母さんについて話したい



いかについては、会員の皆さんから、経験に基づいた温かいアドバイスがありました。その他、放課後の過ごし方、地域小学校の支援学級の現状についての質問もありました。

一般参加や新会員さんの小さいお子さんの悩みについて話し合っていると、あっという間に時間が経ってしまっていて、他の会員さんのお話は、いつも二次会(?)のランチで・・・になってしまっています。

次回は、12月8日(木)に予定しています。ぜひ会員以外の方にも声をかけていただいて、みなさんお誘い合わせのうえ、ご参加ください。

新会員の野村さんの感想です。

私は、お母さんの交流会に2回参加させていただきました。参加するまでは、子どもを、他の子どもと同じように育てようと思っていました。3歳で自閉症と診断され、一言でいうとショックでした。自閉症については何も知らず、書籍、インターネットで調べ、この会を知りました。お母さん交流会で、私が一番考えを変えた一言が、「教育と療育は違う」ということでした。家に帰り、主人と話し合い、子どもにとって一番良い方法を見つけようと、いろいろ施設を探し、8月からあおい学園に入園しました。皆さんが、言われていたように私の心が楽になりました。家で一人で悩んでいるより、同じ悩みを持つ人と話をすることで、3歳の子どもを持つ母親として「明日も頑張ろう」と思えます。この先自分の子どもが、どんな問題にあたるか、私には想像できませんが、これからも悩みを相談したいです。



九月十五日の交流会の様



親子クッキング

8月10日(水) 夏野菜カレー、クレープ
中央コミュニティセンター調理室にて (16名参加)



かわいくトッピングして・・・完成! ➡



いただきま〜す!!

8月25日(木)
おにぎり、焼きそば、みそ汁、フルーツパフェ (20名参加)



8/10参加の
中村葉音ちゃんの感想



「カレーとクレープを作ったよ」
6-1 中村葉音

カレーの野菜は、ダメかと思ったら食べれました。

ナスが一番、野菜の中で好きな物です。

クレープは、たまごの味がききすぎてダメかと思いきや、さいごはむりだったけど、さいしょは、おいしかったです。

チョコが好きだからです。

バナナも好きだからおいしかったです。

8/25参加の岩崎さん(母)の感想

クッキング、楽しかったです。自分で作った料理はおいしかったようで、ビックリするくらい食べていました。今回初めての参加でしたが、色々な学校のお友だちと知り合うことができるきっかけになったと思います。

遠足などの行事もあるそうなので、楽しみにしています。



NHKハート・フォーラム

10月30日(日) 和歌山東急インにて
 主催：NHK和歌山放送局 NHK厚生文化事業団
 社団法人日本自閉症協会近畿ブロック会

自閉症教育の今
 ~ 特別支援教育の成果と課題 ~



【午前】講演 「特別支援教育が自閉症・発達障害へ与えた影響と課題」
 講師：田中 康雄（北海道大学大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター教授）



【午後】講演 1
 「大学における発達障害のある学生への支援-- 修学サポートと発達援助」
 ← 講師：西村 優紀美（富山大学保健管理センター准教授）

講演 2 「発達障害を中心とした特別支援教育の取組」 →
 講師：上西 祐子（和歌山県立和歌山東高等学校教諭）



【シンポジウム】「特別支援教育の成果と課題」

司会：江田 裕介（和歌山大学教育学部教授）
 シンポジスト：田中 康雄
 西村 優紀美
 上西 祐子

岡先生の ワンポイントアドバイス

「特別支援教育の成果と課題から思うこと」

附属特別支援学校 岡 潔

先日、6年ぶりに、和歌山県自閉症協会が担当となり、NHKハート・フォーラムが和歌山市で開催されました。プログラムの内容については昨年の9月の理事会で議案として初めてあがった際に、6年前のテーマ、特別支援教育の展開に対する評価を問いたいと提案させていただいたところ、満場一致で「自閉症教育の今～特別支援教育の成果と課題～」に決まったことを思い出します。

特別支援教育がスタートして5年が経過しようとしている今、自閉症・発達障害のある子どもたちへの理解と教育環境は随分改善されてきました。しかし、一方で全国的に特別支援学校や特別支援学級に在籍する児童生徒数が増加を続けています。特に、知的障害を対象とする特別支援学校の児童生徒数の増加傾向は著しいものがあります。和歌山県においても、来春、13年ぶりの新設校として「県立和歌山さくら支援学校」が現西高校の敷地に開校されることになりました。また、特別支援教育を受けた子どもたちが、高校や大学等への進学を迎えていたり、就労に直面しようとしていたりしている現実もあります。

特別支援教育のもたらした成果の一つが、支援対象の広がりと言われています。今まで陽があたりなかった子どもたちにも、支援の手が差しのべられるようになってきたことはうれしいかぎりのことです。また、早期発見・早期介入が浸透し、地域でも親や家族をサポートしてくれる社会的資源、人的資源のネットワークが整ってきました。個々の教育的ニーズの違いによって多様な学びの場が生まれ、その学びの場を選択できるようになってきていることも一昔前では考えられなかったことです。さらには、支援の谷間をつくらぬよう繋いでいくキーパーソン（コーディネーター）やシステム（支援計画や支援会議）も少しずつ構築されてきています。

今年は災害の年で、よいことの少なかった中であって、一つ画期的だったことは、大学入試センター試験特例措置で「発達障害」が加わり実施されたことです。審査の上許可されるのですが、試験時間の延長（1.3倍）、チェック解答、拡大文字問題冊子の配付、別室の設定、受験・試験室入口までの付添者の同伴、トイレに近い試験室での受験などが認められました。ほんの小さなトピックスですが、自閉症・発達障害者にはまだまだ理解と支援が必要です。この次は、障害者雇用に支援の芽が出てくるかもしれませんよ。他人を思いやれる優しい街づくりにつながっていったらうれしいですね。

現在、私は、高等部に勤務していますが、中学校から入ってくる生徒の課題として、二次的な症状を呈している点がたいへん気になっています。激しいいじめを受けたことで対人関係のトラウマを背負っている生徒、自尊心が低く無気力になっている生徒、自己理解・他者理解ができておらず生きづらさをもった生徒など様々です。学校に適応し、自分は捨てたものじゃないという意識をもてるまでは相当な学び直しや成功体験を重ねる必要があります。一方、指導する側の教師には、自閉症など障害特性を理解し、具体的な手立てを提供できる専門性が必要なのは勿論のこと、デリケートな子どもたちの内面の課題に向き合うための力量が求められています。今回のフォーラムの講師であった田中康雄先生は、子どもの学習において、何を学んだかというより、誰に学んだかが大きいと言われました。自閉症に対する介入方法については、イコラ 7でもお伝えしましたが山ほどあります。結局は、どんな方法を使用するのかという問題ではなくて、活用する教師と子どもとの関係性が一番大切だということなのですね。

～自閉症支援実践賞 受賞おめでとうございます!～

和歌山市内で、障がいを持つ人を対象に音楽療法を行っている、音楽療法室 SWE - E T h o m e の取り組み、「音楽療法室 SWE - E T h o m e の活動～自閉症児への音楽療法 そしてコンサートに向けて～」が、第 12 回日本自閉症協会顕彰事業（自閉症支援実践賞）の特別賞（芸術部門）を受賞しました。

自閉症の子どもたちが、音楽を通して自己表現し、コミュニケーション力をつけていくことを支援するとともに、ピアノの鍵盤やドラムと楽譜を色シールでマッチングさせる視覚支援で分かりやすく提示することで、重度の子でも曲を弾くことができるようになり、コンサートに出演しています。会員のお子さんも何名か音楽療法を受けておられ、先日のコンサートでは、みんないきいきと演奏していました。

支援の一例

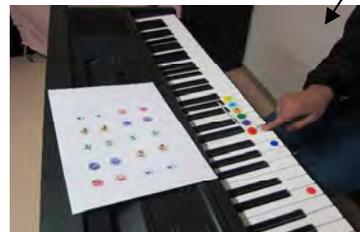


鍵盤にさしこみ式にしている視覚支援カード。楽譜もこれにあわせて色シールで作成されています。

色シール



音楽療法士 川崎先生（右）
武本先生（左）



色シールの譜面



音楽療法室 SWE - E T h o m e
（スイートホーム）
和歌山市布引 543 ハッピーハウス内
TEL 080-4013-4500（代）

事務局から

「和歌山市との対話集会」が、11月15日（火）、和歌山市役所にて開催されました。

「和歌山県との対話集会」は、11月25日（金）、県子ども・女性・障害者相談センターにて開催予定です。

次回「お母さんの交流会」を、12月8日（木）、中央コミュニティセンターにて開催予定です。

伊勢家富士雄

編集後記：11月半ばになり、やっと秋らしく木々も色づき始めました。すぐそこに冬の気配は感じるのに。。。

イコラの編集は、「バタバタ」と始まり、しばらく「ジタバタ」して「バタバタ」と終わるのが常ですが、

「今年の紅葉も同じだなあ」なんて思いながら、どうにか今回も無事でき上がりました(^_^)

編集スタッフ：尾崎富久子・江川かがり・藤原昌子・植野比呂美

《発行》イコラ編集局（連絡先）植野比呂美

イコラはWeb版も出しています。ぜひカラーでもお楽しみ下さい。バックナンバーもご覧いただけます。
和歌山県自閉症協会ホームページからどうぞ!!